

令和元年9月12日現在

機関番号：32513

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K16888

研究課題名(和文) 英語基本語における難易度別語義データベースの構築とその妥当性と実用性の検証

研究課題名(英文) Constructing a Database of Word Sense of English Basic Vocabulary and Examination of validity and practicality of the Database

研究代表者

星野 由子 (Hoshino, Yuko)

秀明大学・学校教師学部・准教授

研究者番号：80548735

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：平成28年度版中学校英語教科書を出版している6社について、3学年中のどの時点でそれぞれの意味が現れたのかを調べたデータベースを構築することができた。その結果、すべての教科書で同時期に現れた語義もあれば(例：aboutの「...について」、oldの「年をとって古い」など)、中学1年の前半で初出の出版社もあれば中学3年の前半で初出になる出版社もあるような、初出の語義の時期がばらついているものもあった(例：shortの「ものの長さが短い」など)。また、passの「時間が過ぎる」などは6社中2社でのみ使用されている語義であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

基本語は多くの意味で使用されるにも関わらず、どのような意味をどの時点で教えるべきかについては明確な基準がないことが明らかになった。現在の中学校英語教科書は文法シラバスに基づいて作られているが、どのようなテーマであれば英語を使って理解したり表現したりすることができるかという観点も重要である。実際に小学校の英語教科書は文法シラバスではなくテーマに基づいて作られており、その際には様々な語義を持つ基本語を使いこなすというポイントが重要視されてくるであろう。そのような観点から、基本語の語義分類を行なった本研究は意義があるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：Database about word sense was successfully created based on all of the six types of junior high school English textbooks published in Japan as of 2016. By constructing the database, it was clarified that some word senses appear almost at the same time of the academic year (e.g., "so as to" of "about" and "mentioning specified age" of "old" appears the beginning of Grade 7). However, some senses appear in the beginning of the Grade 7 in one textbook but the same senses appear in Grade 9 in other textbooks. This means word senses are almost under no control of publishers.

研究分野：英語教育学

キーワード：英語教育学 基本語 多義語

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

外国語学習において語彙を習得することは必要不可欠であり、その重要性は学習指導要領にも如実に表れている。たとえば、以前の学習指導要領では中学校・高等学校で指導する語彙数は計 2,200 語だったものの、現行の学習指導要領では 3,000 語に増加している。

語彙数についてはこのように指標が定められているが、語彙のどの側面を教えるべきかについては特に指標がないのが現状である。語彙知識には、Nation (2001) が定めている 9 つの知識があると言われているが、全ての側面を習得すれば良いのか、それとも一部の側面のみ習得すれば良いのかについてはほとんど定められていない。しかし、表 1 の中でも唯一難易度が定められている側面が文法機能である。中学校の英語の授業は文法シラバスに基づいて行われているため、たとえば have 自体は 6 つの文科省検定教科書全てで 1 年生の時点で現れるものの、現在完了形の用法は全ての教科書で 3 年生で出現する。また、多くの多読教材でも文法シラバスが採用されており、教材のレベルに応じて導入される文法項目が定められている。このように文法機能についてはどの段階でどのような文法項目を教えるべきかが定められている。

一方で、have のような基本語は多くの意味で使用されるにも関わらず、どのような意味をどの時点で教えるべきかについては明確な基準がない。星野 (2016) では英検のテストで基本語のどのような意味が使用されているのかを調べている。その結果、(a) 下位級でも上位級でも使用される意味、(b) 上位級のみで使用されている意味、(c) 下位級のみで現れている意味があった。例えば、have であっても、「<物を>自分のものとして持っている（例：have a bag）」は下位級のみで現れ、「<物などが><特質などを>一要素として持っている（例：have quality）」は、上位級のみで現れていた。この 2 つの意味は、どちらも「持つ」という意味を共有しながらも、持つ目的語が「物」なのか「特質」なのかという、その具体性によって出現級が異なっていたことが判明した。また、take について中学校英語教科書 6 冊に現れる意味分布と、英語母語話者が使用する意味分布を比較した松久保 (2015) は、中学校教科書と英語母語話者の take の使用に大きな違いがあることが明らかになり、現在の中学校英語教科書だけでは take の指導に限界があることを示した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、英語の基本語における難易度別語義データベースを構築し、且つその妥当性と実用性を検証することである。この目的を達成するために、まず平成 28 年度に基本語の選定と基本語が掲載されている複数の辞書における意味項目を比較し、意味の再分類を行う。平成 29 年度にはその再分類したデータを中学校英語教科書やレベル別多読教材での基本語の意味の出現頻度や出現学年・出現レベルと比較し対応させ、データベースを作成する。平成 30 年度はこのデータベースと学習者の基本語に関する知識の発達がどの程度一致するのかを調査することでデータベースの妥当性を検証すると共に、そのデータベースを実際に英語教員に使用してもらいフィードバックを得ることで実用性を検証する。

3. 研究の方法

まず目標語となる基本語を選出する。選出の基準は平成 28 年度に改訂される中学校英語教科書 6 社全てで現れている単語であり、かつ内容語であることである。さらに、小西 (1980) や政村 (2012) などにも掲載されている単語であるかどうかを確認する。

その後、Oxford Dictionary of English, Longman Dictionary of Contemporary English のような洋書の辞書と、小西（1980）、政村（2012）、また瀬戸（2007）の「多義ネットワーク辞典」のような和書の辞書各数冊ずつを用意し、目標語として選出された基本語の意味が各辞書によってどのように定義されているかについて類似点と相違点を挙げて比較し、日本語を母語とする英語学習者にとってよりわかりやすいように意味を再分類する。その後、専門家によるチェックをお願いし、再分類が適切であるかどうかを再確認する。

上記のように再分類した基本語の意味を中学校英語教科書・レベル別多読教材と比較して難易度別に並べ替え、基本語の難易度別意味データベースを構築する。平成 28 年度に改訂された 6 社の中学校英語教科書をすべてテキスト化して中学校英語教科書のコーパスを作成し、中学校英語教科書において、平成 28 年度に選定した基本語のどの意味がどの段階で現れているのかを調査する。それと同時に、主に日本語母語話者用の教材のみを扱うのではなく幅広い教材を扱うために、レベル別多読教材のコーパス内における基本語の意味が現れているレベルも調べる。これらの調査に基づいて基本語の意味を難易度順に並べ、中学校においてどの時点でどの意味を教えるべきかというデータベースを構築する。

4. 研究成果

以下の図 1 のようなデータベースを構築できた。平成 28 年度版中学校英語教科書を出版している 6 社について、3 学年中のどの時点でそれぞれの意味が現れたのかを調べることができた。その結果、すべての教科書で同時期に現れた語義もあれば（例：about の「～について」、old の「年をとって古い」など）、中学 1 年の前半で初出の出版社もあれば中学 3 年の前半で初出になる出版社もあるような、初出の語義の時期がばらついているものもあった（例：short の「ものの長さが短い」など）。また、pass の「時間が過ぎる」などは 6 社中 2 社でのみ使用されている語義であった。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	単語	多義ネットワーク辞典	訳語別	Columbus	New Crown	New Horizon	One World	Sunshine	Total English
81	0	<物・場所>汚れがなくてきれいな 0a <エネルギー・設備が>環境を汚さない	<空気が水などを>汚染されていない <人(の体)・服などが>清潔な 身ざれいな <部屋・場所が>整理されている <紙が>のり、 クリーンな	3年後半	2年前半	2年後半	2年後半	3年後半	3年前半
81	1	<物・場所を>きれいにする 1a <汚れを>(場所から)取り除く	<空気・水などを>浄化する <部屋などを>きれいに片づける <体・服などを>清潔にする <色・臭いなどを>(塵物を取り除いて)きれいに にする (物・場所を)きれいにすること 掃除 <汚れを>落とす	1年前半	1年後半	2年前半	1年後半	1年前半	1年前半
82	clean	2 <物(の顔面・表面)が>(出っ張り がなく)なめらかな	凸凹のない すっきりとした <材木が>節のない						
83	3	<色・音・味などが>すっきりとした	<色が>さわやかな <音が>澄んだ <味においが>すがすがしい						
84	4	<人(の心)・生活などが>汚れがな くてきれいな 4a <行動・組織などを>腐敗などがな くきれいにする	清い 公正な <経路が>しみじつ(物料のない 鉄・麻薬などを不法所持していない 商業などをやっていない) <体制を>浄化する <行いを>改める <イメージを>よくする <腐敗・混乱を>一掃する						
85	5	<物事が>汚れが無く完全無欠な	完全な 華やかな						

図 1. 語義別データベース例

しかし、当初予定していた本データベースの妥当性の検証については実施しなかった。これは、平成 29 年 12 月に新学習指導要領が告示され、これによって中学 3 年生までで扱う語彙の数が倍になることが判明したため、本データベースの妥当性を検証したとしても新学習指導要領が使われはじめる令和 3 年度には、中学校の教科書自体が大きく変化すると考えられたためである。そのため、本データベースに掲載された語義の難易度などを調べるよりも、新学習指導要領に基づいて作られた小学校外国語科の教材である “We Can!” で用いられる語彙の多義性を調

べる方が、今後の研究の発展につながると考えられたためである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

Hoshino, Y. (2016). The comparison of TEAP and the center test with focus on vocabulary. *British Council new directions in language assessment: JASELE journal special edition*, 25-37.

Hoshino, Y. & Shimizu, H. (2018). The organization of the senses of polysemy in Japanese EFL learners' mental lexicon. *Creative Education*, 9, 353-367.

星野由子. (2018). 「日本人英語学習者は既習語の意味を知らないことに気がつくか」. 秀明大学紀要, 15, 25-36.

星野由子, 清水遥. (2019). 「小学校外国語・外国語活動で扱われるカタカナ語—日本語と英語の語義の比較分析を通して—」. *JES Journal*, 19, 117-129.

Shimizu, H. & Hoshino, Y. (2019). Sense categorization of polysemy by Japanese EFL learners: The influences of extensive reading. *Annual Review of English Language Education in Japan*, 30.

〔学会発表〕(計 7 件)

星野由子. (2016). 「日本人英語学習者は既習語の意味を知らないことに気がつくか」. 全国英語教育学会第 42 回埼玉研究大会. 埼玉: 獨協大学.

星野由子, 森本俊, 松久保暁子, 椿まゆみ, 坂田直樹. (2016). 「難易度別多読教材における多義語 “take” の語義分布の比較」. 大学英語教育学会第 55 回国際大会. 北海道: 北星学園大学.

星野由子. (2017). 「日本人英語学習者における多義語の辞書使用実態調査」. 全国英語教育学会第 43 回島根研究大会. 島根: 島根大学.

清水遥, 星野由子. (2017). 「基本語の語義から見る日本人英語学習者の語彙ネットワーク」. 全国英語教育学会第 43 回島根研究大会. 島根: 島根大学.

Hoshino, Y. (2018). “Comparing word senses appearing in the beginning stage of English learning and their difficulty as determined using the English vocabulary profile” the 16th Hawaii International Conference on Education. Hawaii: Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort.

星野由子, 清水遥. (2018). 「小学校外国語科・外国語活動で扱われるカタカナ語-日本語と英語の意味のギャップに着目して-」. 第 18 回小学校英語教育学会 (JES) 長崎大会. 長崎: 長崎大学.

清水遥, 星野由子. (2018). 「多読は多義語のメンタルレキシコンを変化させるか-意味分類課題を用いて-」. 全国英語教育学会第 44 回京都研究大会. 京都: 龍谷大学.

〔図書〕(計 3 件)

「英語好きな子に育つたのしいお話 365」. 誠文堂新光社. 共著 (p. 24, 31, 58, 262, 284, 324, 334, 341, 409)

「初等外国語教育」ミネルヴァ書房. 共著 (pp. 15-24)

「中学校各教科の「見方・考え方」を鍛える授業プログラム」. 学事出版. 共著 (pp. 32-37, pp. 88-91)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

なし

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。